

～未来の学校プロジェクト～

小学校のあり方について
地域対話が始まります！



みなさんこんにちは。

今、茅野市教育委員会では、児童数の減少や学校施設の老朽化を大きな課題ととらえ、今後子どもたちにとってどのような教育環境が最適なのかを市民の皆さんと共に考えていくために小学校のあり方について地域対話を開催します。

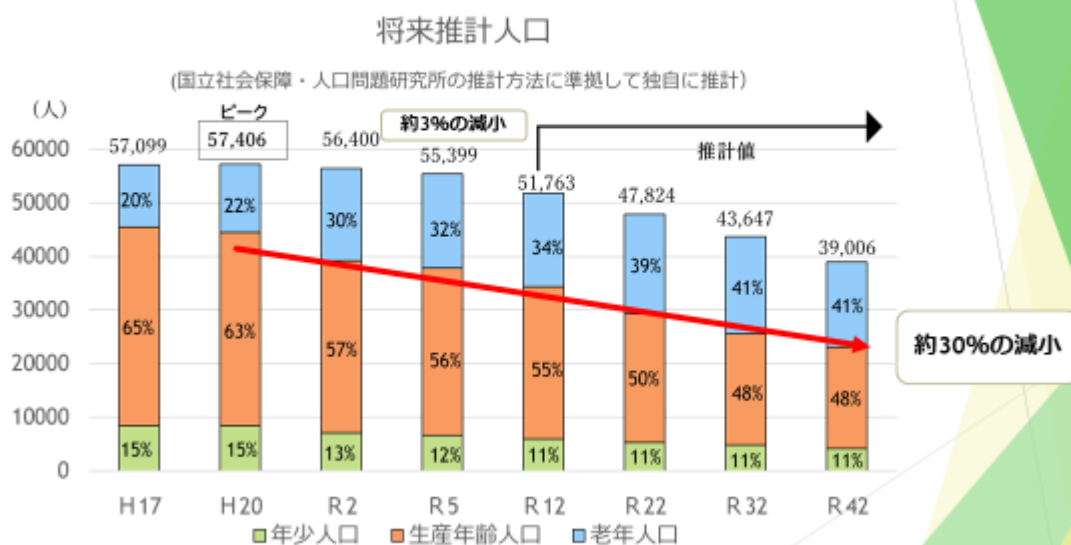
今回、茅野市の学校をとりまく課題や現状を市民の皆さんと共有をして、これから始まる地域対話とはどのようなものかを知ってもらうため、動画を作成しました。

1 茅野市の現状



では、まず茅野市の現状についてご説明します。

(1) 市内全体の人口推移について



市内全体の人口推移についてです。

全国的に人口減少と少子高齢化が進み、茅野市においても、人口は平成20年をピークに減少に転じ、令和5年はピーク時から3%の減少となっています。また、茅野市の将来推計人口は令和42年には約39,000人となり、令和5年の推計人口約55,400人と比較すると約30%減少する見込みです。

(2) 小学校児童数の推移について

市内児童数の推移

R 6.10.1時点

	R06 (2024)		R07 (2025)		R08 (2026)		R09 (2027)		R10 (2028)		R11 (2029)		R12 (2030)		R 12と R6の対比	
	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	減少率 (%)
永明小	523	18	486	17	485	17	444	16	431	16	439	16	425	15	-98	-18.7
宮川小	668	22	661	22	630	21	592	20	583	19	531	17	506	17	-162	-24.3
米沢小	238	10	229	10	228	10	220	10	213	9	202	8	175	7	-63	-26.5
豊平小	212	9	205	8	203	8	188	7	188	7	176	7	178	8	-34	-16.0
玉川小	647	23	622	22	596	21	565	20	532	19	524	18	479	17	-168	-26
泉野小	83	6	71	6	69	6	64	6	58	6	58	6	52	6	-31	-37.3
金沢小	100	6	94	6	83	6	74	6	71	6	69	6	61	6	-39	-39.0
湖東小	194	8	186	7	175	7	176	7	160	6	156	6	154	6	-40	-20.6
北山小	117	6	108	6	105	6	89	6	88	6	71	6	67	6	-50	-42.7
合計	2,782	108	2,662	104	2,574	102	2,412	98	2,324	94	2,226	90	2,097	88	-685	-24.6

住民登録者を基に独自に推計

続いて、小学校児童数の推移についてです。

この表は、令和6年 10 月に茅野市に住民登録されている方を基に、転入転出等の社会増減が無かった場合の児童数推移になります。

今後、児童数は減少し続け、令和 12 年度には、令和6年度と比べ市内全体で約 680 人、24.6%の児童が減少する見込みです。これは、現在の宮川小学校1校分とほぼ同じくらいの児童数が減少することになります。

市内児童数の推移

R 6.10.1時点

	R06 (2024)		R07 (2025)		R08 (2026)		R09 (2027)		R10 (2028)		R11 (2029)		R12 (2030)		R12とR6の対比	
	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	減少率 (%)
永明小	523	18	486	17	485	17	444	16	431	16	439	16	425	15	-98	-18.7
宮川小	668	22	661	22	630	21	592	20	583	19	531	17	506	17	-162	-24.3
玉川小	647	23	622	22	596	21	565	20	532	19	524	18	479	17	-168	-26

令和6年度と令和12年度の比較

	児童数	学級数	R06平均児童数	R12平均児童数
● 永明小学校	△98人	△3学級	29.1人/学級	⇒ 28.3人/学級
● 宮川小学校	△162人	△5学級	30.4人/学級	⇒ 29.8人/学級
● 玉川小学校	△168人	△6学級	28.1人/学級	⇒ 28.2人/学級

学校別で令和6年度と令和12年度の比較をしてみますと、永明小学校では、令和12年度には児童数425人となり、令和6年度より98人、3学級減少します。児童数を学級数で割った、1学級当たりの平均児童数は令和6年度の29.1人から令和12年度には28.3人となる見込みです。

同様に、宮川小学校は、令和12年度には児童数506人となり、令和6年度より162人、5学級減少します。1学級当たりの平均児童数は令和6年度の30.4人から令和12年度には29.8人となる見込みです。

玉川小学校は、令和12年度には児童数479人となり、令和6年度より168人、6学級減少します。1学級当たりの平均児童数は令和6年度の28.1人から令和12年度には28.2人となる見込みです。

市内児童数の推移

R6.10.1時点

	R06 (2024)		R07 (2025)		R08 (2026)		R09 (2027)		R10 (2028)		R11 (2029)		R12 (2030)		R12とR6の対比	
	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	減少率 (%)
米沢小	238	10	229	10	228	10	220	10	213	9	202	8	175	7	-63	-26.5
豊平小	212	9	205	8	203	8	188	7	188	7	176	7	178	8	-34	-16.0
湖東小	194	8	186	7	175	7	176	7	160	6	156	6	154	6	-40	-20.6

令和6年度と令和12年度の比較

	児童数	学級数	R06平均児童数	R12平均児童数
● 米沢小学校	△63人	△3学級	23.8人/学級	⇒ 25.0人/学級
● 豊平小学校	△34人	△1学級	23.6人/学級	⇒ 22.3人/学級
● 湖東小学校	△40人	△2学級	24.3人/学級	⇒ 25.7人/学級

続いて、米沢小学校は、令和12年度には児童数175人となり、令和6年度より63人、3学級減少します。1学級当たりの平均児童数は令和6年度の23.8人から令和12年度には25.0人となる見込みです。

豊平小学校は、令和12年度には児童数178人となり、令和6年度より34人、1学級減少します。1学級当たりの平均児童数は令和6年度の23.6人から令和12年度には22.3人となる見込みです。

湖東小学校は、令和12年度には児童数154人となり、令和6年度より40人、2学級減少します。1学級当たりの平均児童数は令和6年度の24.3人から令和12年度には25.7人となる見込みです。

市内児童数の推移

R6.10.1時点

	R06 (2024)		R07 (2025)		R08 (2026)		R09 (2027)		R10 (2028)		R11 (2029)		R12 (2030)		R12とR6の対比	
	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	学級数	児童数 (人)	減少率 (%)
泉野小	83	6	71	6	69	6	64	6	58	6	58	6	52	6	-31	-37.3
金沢小	100	6	94	6	83	6	74	6	71	6	69	6	61	6	-39	-39.0
北山小	117	6	108	6	105	6	89	6	88	6	71	6	67	6	-50	-42.7

令和6年度と令和12年度の比較

	児童数	学級数	R06平均児童数	R12平均児童数
● 泉野小学校	△31人	±0学級	13.8人/学級	⇒ 8.7人/学級
● 金沢小学校	△39人	±0学級	16.7人/学級	⇒ 10.2人/学級
● 北山小学校	△50人	±0学級	19.5人/学級	⇒ 11.2人/学級

続いて、泉野小学校は、令和12年度には児童数52人となり、令和6年度より31人減少し、学級数の増減はありません。1学級当たりの平均児童数は令和6年度の13.8人から令和12年度には8.7人となる見込みです。

金沢小学校は、令和12年度には児童数61人となり、令和6年度より39人減少し、学級数の増減はありません。1学級当たりの平均児童数は令和6年度の16.7人から令和12年度には10.2人となる見込みです。

北山小学校は、令和12年度には児童数67人となり、令和6年度より50人減少し、学級数の増減はありません。1学級当たりの平均児童数は令和6年度の19.5人から令和12年度には11.2人となる見込みです。

2 国・県の基準



国や県で示す基準について説明します。

(1) 学校規模について

学校規模

《国基準》

次の小中学校の学級数を基準としています。ただし、地域の実態その他により特別の事情がある時は、この限りではないとしています。

小学校基準学級数12～18学級

中学校基準学級数12～18学級

学級編成

《県基準》

1学級の人数

- ▶ 通常学級 35人以下
- ▶ 複式学級 8人以下



複式学級とは・・・

引き続く2の学年の児童生徒数の合計が上記基準以下の場合、複式学級を編成する。

例：2年生3人、3年生5人の場合、2年生と3年生で1学級となる

学校の規模や学級編成は、国や長野県の基準が定められています。

小学校の規模は、国で 12～18 学級としています。ただし、地域の実態その他により特別な事情がある時はこの限りではないとしています。

学級編成は、長野県の基準で通常学級は1学級 35 人以下、複式学級は1学級8人以下としています。複式学級というのは、引き続く2つの学年の児童生徒数が8人以下となった時に編成される学級のことです。例えば、2年生3人 3年生5人の場合、児童数が8人以下になるため、2年生と3年生で1学級を編成することになります。

(2) 教職員配置について



小学校職員配置

学級数	校長	教頭	担任	専科	合計
1～5学級	1名	1名	1学級1名	—	3～7名
6～13学級	1名	1名	1学級1名	1名	9～16名
14～25学級	1名	1名	1学級1名	2名	18～29名
26学級～	1名	1名	1学級1名	3名	31名～

※長野県では、1学級30人を超えた場合、教員を通常の基準以上に配置する制度があります。
また、クラス数が複数の場合、状況によって教員を通常の基準以上に配置する制度があります。

長野県では、学級数により教員の配置数が決まってきます。

学級数が1～5学級の学校には校長先生や教頭先生を含めて3～7名となります。専科教員の配置はありません。6～13学級の学校は、専科の教員が1名配置され、教員が9～16名となります。また、14～25学級の学校は、専科の教員が2名配置され、教員が18～29名となります。

専科とは、専科指導教員のことで、担任以外で特定科目の授業をする教員のことです。小学校では、主に音楽や理科の専科指導教員の配置となることが多いです。

教職員の配置について長野県では、1学級30人を超えた場合、教員を通常の基準以上に配置する制度があります。

また、クラス数が複数の場合、状況によって教員を通常の基準以上に配置する制度があります。

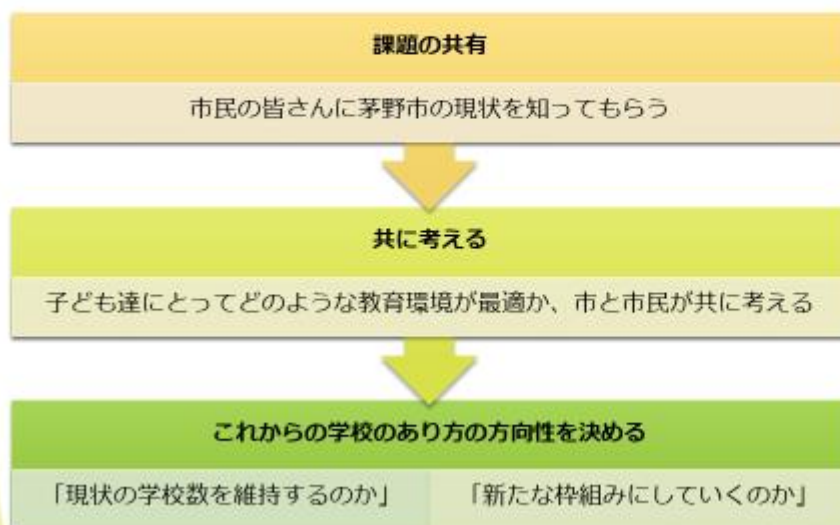
3 地域対話の進め方について



児童数の減少や学校施設の老朽化など課題があるなかで、子ども達にとってどのような教育環境がいいのでしょうか。未来の学校のあり方とはどのようなものでもいいのでしょうか。

茅野市教育委員会では、未来を生きる子どもたちにどのような教育環境が最適なのか、市民の皆様と共に考えるため、地域対話を開催します。

(1) 地域対話の方向性について



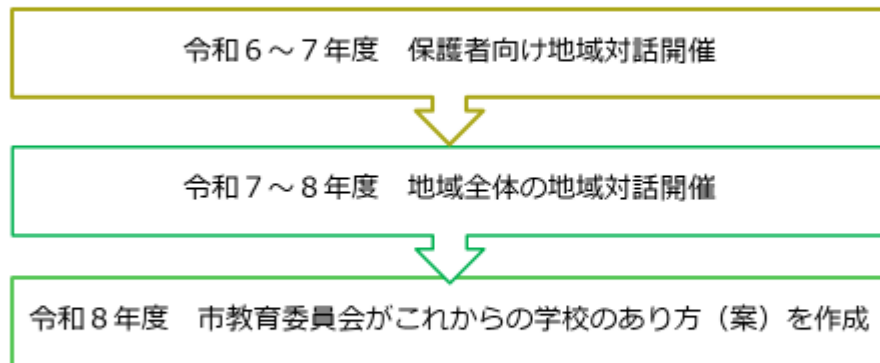
地域対話は、次のように進めていきます。

これまでご覧いただいた現状を踏まえ、「現状の学校数を維持するのか」、「新たな枠組みにしていけるのか」をまずは決めたいと考えます。

検討を進める未来の学校は、今の 10 代や 20 代の世代が子育て世代になる頃の環境になるでしょう。

「中学校を卒業してしまうから」、「今は子どもが茅野市を離れているから」そのような若者や保護者の皆様にも、自分事として一緒に考えていただきたいと思います。

(2) 今後のスケジュールについて



今後のスケジュールは、子育て中の保護者の方を対象とした地域対話を開催した後に地域全体の方を対象に開催します。保護者の方から頂いた意見をまとめ、地域全体の方を対象にした地域対話でお示ししたいと考えます。

児童数の推移でご覧いただいたように、令和12年度あたりから児童数の減少が顕著となります。この頃には新たな枠組みでの学校を開校せざるを得ないと想定します。

まずは、「現状の学校数を維持するのか」、「新たな枠組みにしていくのか」という大きな方向性について1～2年の中で方向付けていきたいと考えています。

※「新たな枠組みの学校を開校する」となった場合、校舎改修など環境整備に3～4年、学校運営の準備に2～3年、また教員配置について2年程度の時間が必要だと考えています。

[illegible]

★アンケートフォームはこちら

<https://logoform.jp/form/tKkC/908642>

